

琉球大学学術リポジトリ

沖縄の災害情報に関する歴史文献を主体とした総合的研究

メタデータ	言語: 出版者: 高良倉吉 公開日: 2009-02-27 キーワード (Ja): 沖縄, 琉球, 災害史, 地震津波, 異常気象, 歴史文献情報 キーワード (En): 作成者: 高良, 倉吉, 山里, 純一, 豊見山, 和行, 真栄平, 房昭, 赤嶺, 政信, 狩俣, 繁久, Takara, Kurayoshi, Yamazato, Jyunichi, Tomiyama, Kazuyuki, Maehira, Fusaaki, Akamine, Masanobu, Karimata, Shigehisa メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/8987

沖縄の災害情報に関する
歴史文献を主体とした総合的研究

(課題番号 17320100)

平成17年度～平成19年度 科学研究費補助金
(基盤研究 (B)) 研究成果報告書

平成20年3月

研究代表者 高良倉吉
琉球大学法文学部教授

沖縄の災害情報に関する
歴史文献を主体とした総合的研究

—目次—

まえがき・・・・・・・・・・・・・・・・・・高良倉吉 1

第1部 論文編

琉球災害史覚書——地震・津波の発生状況概観・・・・・・・・・・高良倉吉 7
付録：琉球災害史略年表（地震・津波を中心に）

近世の琉球社会と「飢饉」——日記から読み解く歴史像——・・・・・・ 真栄平房昭 13

「宮古八重山津波」（1771年）における災害・年貢・復興について
——八重山と多良間を中心に——・・・・・・ 豊見山和行 21

災害と呪術・・・・・・・・・・・・・・・・・・山里純一 41

沖縄における津波と「油雨」に関する伝承資料・・・・・・・・・・赤嶺政信 49

ことわざにみる自然災害（おぼえがき）・・・・・・・・・・かりまたしげひさ 59

第2部 資料編

凡例と目次・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 69

I 正史関係・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 71

II 首里王府仕置・久米島・両先島関係・・・・・・・・・・ 99

III 近代初期関係・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 223

補録：琉球・沖縄災害史研究文献目録
——地震および津波被害を中心に（暫定）・・・・・・・・・・ 285

まえがき

前近代（琉球王国時代）における琉球（沖縄）の自然災害（特に地震・津波等）の発生はどのような状況だったのか、という素朴な疑問から本研究はスタートした。例えば、今日において広く利用されている『沖縄大百科事典』（1983年、沖縄タイムス社）を見ると、別巻所収の「沖縄・奄美総合歴史年表」に、

1665年 大地震発生

1760年 大地震があり、首里城の石垣が57カ所損壊する

1768年 大地震があり王城の石垣をはじめ家屋、多数損壊し、慶良間島では津波による被害が出る

1771年 明和の大津波（宮古・八重山で遭難者1万1861人）

などの記事があり、また、本巻中に「地震」（木村政昭執筆）、「津波石」（目崎茂和）、「津波伝説」（仲間敦子）、「明和の大津波」（牧野清）などの項目が収録されているものの、全体に情報不足の感が否めない。文献研究に基づく地震・津波研究はその後に刷新された点はあるものの、分析事例は限定的であり、全体的な発生状況を網羅的に見通した仕事は皆無といえるように思う。

そこで本研究では、参照可能な主要歴史文献を渉猟し、その中に登場する地震・津波をはじめとする自然災害記事を抜き出したうえで、その情報をデータベースとして整備することを目標とした。

文献情報のデータベース化を重視したのは、従来の琉球（沖縄）災害史の検討において『球陽』などの一部の文献資料が扱われたことはあるものの、幅広く文献資料を渉猟することがなされていなかったためである。その意味で、前近代における自然災害史に関する文献情報をより豊富化することによって、沖縄地方気象台などにおいてある程度蓄積されているはずの近代・現代の災害史情報にドッキングすることを意図した。また、そのことを通じて、琉球（沖縄）災害史をながいスパンに立って検討する作業に道を開き、災害史研究そのものや災害予知研究などに役立ててもらえればと考えた。

さらにまた、文献情報のみに特化するのではなく、一つの試みとして、民間信仰や民俗、あるいは方言などの分野で自然災害に関わる事象を抽出できないかと考えた。災害に対して人々はどのように向き合ったのか、その体験を人々はどのように記憶してきたのかという問題を探るための切り口であり、豊富な成果が得られたかどうかはさておき、災害史を考える際に必要となるスタンスを示したつもりである。

上記の作業をふまえたうえで、研究代表者および研究分担者各自で検討したテーマについての論文や研究ノートを収録して、本報告書は成り立っている。

最後に、文献情報の収集やデータベース作成の面で院生・学生の勝連晶子、上里隆史、与那嶺哲、大八木智子、安崎文人、山田浩世、石附馨、高崎典子、福地有希、山城彰子諸氏に、データ編集では勝連晶子・仲間恵子・高橋ユキ氏のお世話になった。この場をかりて感謝のこたえを贈りたい。

2008年2月

研究代表者 高良倉吉

研究課題

沖縄の災害情報に関する歴史文献を主体とした総合的研究

研究組織

研究代表者：高良倉吉（琉球大学法文学部教授）

研究分担者：豊見山和行（琉球大学教育学部教授）

真栄平房昭（神戸女学院大学文学部教授）

山里純一（琉球大学法文学部教授）

赤嶺政信（琉球大学法文学部教授）

鈴木寛之（熊本大学文学部准教授）

狩俣繁久（琉球大学法文学部教授）

研究協力者：勝連晶子（琉球大学大学院院生）

上里隆史（法政大学沖縄文化研究所国内研究員）

与那嶺哲（琉球大学大学院院生）

大八木智子（琉球大学大学院院生）

安崎文人（琉球大学大学院院生）

山田浩世（琉球大学大学院院生）

石附馨（大阪大学大学院院生）

仲間恵子（琉球大学非常勤講師）

高崎典子（琉球大学大学院院生）

高橋ユキ（琉球大学大学院院生）

福地有希（琉球大学大学院院生）

山城彰子（琉球大学大学院院生）

研究経費

年 度	直接経費	間接経費	合 計
平成 17 年度	1,700,000 円	0 円	1,700,000 円
平成 18 年度	1,300,000 円	0 円	1,300,000 円
平成 19 年度	1,200,000 円	360,000 円	1,560,000 円
総 計	4,200,000 円	360,000 円	4,560,000 円

研究業績

2007 年度

- 高良倉吉「沖縄の文化遺産とその復興をめぐる状況」(『21世紀パラダイムシフト』橋本晃和編、冬至書房、53～60頁)
- 高良倉吉「伊是名玉御殿の被葬者についての検討」(『首里城研究』9号、59～70頁)
- 鈴木寛之「命名と造語」(『口承文芸研究叢書』4、三弥井書店、103～112頁)

2006 年度

- 高良倉吉「「古琉球」「中世」そして「近世」をめぐる琉球史の諸相」(『中世文学』51号、12～15頁)
- 高良倉吉「琉球史研究をめぐる四〇年」(『沖縄文化』100号、45～59頁)
- 高良倉吉「近世末近代初頭の琉球における模合請取証文について」(『日本東洋文化論集』12号、169～186頁)
- 高良倉吉「「羽地仕置」に見る首里城の覚書」(『首里城研究』8号、4～9頁)
- 真栄平房昭「近世日本の境界領域」(『近世地域史フォーラム：列島史の南と北』吉川弘文館、3～34頁)
- 真栄平房昭「琉球王国に伝来した中国絵画」(『沖縄文化』100号、60～88頁)
- 真栄平房昭「琉球王国の港と船」(『ビジュアルNIPPON江戸時代』山本博文監修、小学館、150～157頁)
- 真栄平房昭「『琉客談記』から見える中国像」(『国際社会の中の近世日本』第57回歴博フォーラム報告集国立歴史民俗博物館、38～47頁)
- 豊見山和行「漁撈・海運・商活動—海面利用をめぐる海人と陸人の琉球史—」(『地域の自立 シマの力(下)』173～197頁)
- 豊見山和行「冊封使・徐葆光の記録『中山伝信録』と琉球」(『国文学解釈と鑑賞』第71巻10号、至文堂、153～159頁)
- 豊見山和行「琉球列島の海域史研究序説—研究史の回顧と二、三の問題を中心に—」(『琉球大学教育学部紀要』第68集、253～264頁)

2005 年度

- 高良倉吉「首里城正殿の重修にみる王府プロジェクト」(『沖縄県史各論編4巻・近世』沖縄県教育委員会、447～464頁)
- 高良倉吉「琉球王国—アジア海域世界における地域形成」(『Workshop on Northeast Asia in Maritime Perspective』大阪大学、1～7頁)
- 高良倉吉『琉球・沖縄と海上の道—街道の日本史56』豊見山和行・高良倉吉共編、吉川弘文館、279頁
- 真栄平房昭「明末・中国人の琉球渡航記」(『海路』2号、171～177頁)
- 真栄平房昭「16～17世紀における琉球海域と幕藩制支配」(『沖縄県史各論編4 近世』沖縄県教育委員会、29～58頁)
- 真栄平房昭「海を越えた茶と琉球漆器」(『淡交』59巻8号、19～23頁)
- 豊見山和行『琉球・沖縄と海上の道—街道の日本史56』豊見山和行・高良倉吉共編、吉川弘文館、279頁

豊見山和行「近世琉球という時代」(沖縄県教育委員会編『沖縄県史 各論編4 近世』3
～26頁)

赤嶺政信「村落の始祖と門中の始祖」(『沖縄民俗研究』23、沖縄民俗学会、97～116頁)